

授業概要

この『政治学』においては、我々の生活を直接・間接に取り巻く「政治」に対する「政治学」的な視点を養うことを目的としている。鳥瞰的な物事の捉え方を学び、またその分析枠組みを提供するのが「政治学」という学問の目的の一つである。

講義の具体的な内容は以下の通りであるが、グローバル化が進行する中でさまざまなリスクの存在あるいは新たなリスクの発生が指摘されている。我々を取り巻くリスクにはどのような種類があるのかを概観した上で、医療や年金といった社会保障システムと財政の問題を検討していく。世の中の基本的なしくみ（あるいは人々の考え方）を理解してもらうことを目標とし、そして、そうした営みが「政治」とは何を目指すべきものなのか、といったより大きな課題を考える契機になれば、と考えている。

授業計画

第 1 回	講義の概略
第 2 回	国民国家主体(1) ～ 国際政治とグローバル政治
第 3 回	国民国家主体(2) ～ 国民国家の生成・発展プロセス
第 4 回	イデオロギー(1) ～ リベラリズム、ニューリベラリズム、ネオリベラリズム
第 5 回	イデオロギー(2) ～ 再分配政策とリバタリアニズム
第 6 回	リスク社会論 ～ さまざまなリスク
第 7 回	国際安全保障システム
第 8 回	非国家主体の役割
第 9 回	福祉国家論(1) ～ 日本の社会保障制度
第 10 回	福祉国家論(2) ～ 福祉国家と財政、グローバル化
第 11 回	福祉ガバナンス ～ ウェルフェア、ワークフェア、ベーシック・インカム構想
第 12 回	政治過程論(1) ～ 政治過程と政治参加
第 13 回	政治過程論(2) ～ アクターとその影響力行使の手法
第 14 回	多元主義とコーポラティズム
第 15 回	政治的社会化と政治文化、新制度論
第 16 回	筆記試験

到達目標

政治の世界における基本的な対立構造の理解および「政治過程論」を中心とする現代政治学の基本的分析枠組みを習得することを到達目標としています。また、我々が日常生活を送る上で密接に関連してくる社会保障システムの基本的構図を学び、「政治」というものに我々が囲まれて生活していることを改めて認識してもらうことを目標としています。

履修上の注意

レポートの提出規定などを伝達するので、第一回の授業には必ず出席して下さい。(やむを得ない場合は第二回時に初回時の欠席理由を告げる事。)

定期的に「小テスト」を実施します。それまでの内容を復習・理解しているかを問う内容なのでしっかりノートを確認しながら復習していくようにしてください。

また、一度たりとも欠席はしないという覚悟の上で履修登録を行なって下さい。病気・就職活動等による欠席も無条件での出席扱いとはしません。レポートの課題を出しますので、それが提出されてはじめて出席扱いとします。

予習・復習

各授業前の予習は必要ありませんが、講義開始前までに中学校時代の「公民」の教科書、あるいは高校時代に「政治・経済」を履修していればその教科書を取り出してもう一度復習しておけば、格段に授業の内容が頭に入りやすくなるはずす。

評価方法

出席状況、ならびに上記の「小テスト」および学期末の試験の点数で総合評価します。

テキスト

星野昭吉・伊藤肇・阿部松盛・田中宏明・都留康子・鈴木亨尚

『グローバル政治の原理と変容』(テイハン、2014年)

ISBN 978-4-86096-077-3